

一般社団法人ロボカップジュニア・ジャパン

2025年度第2回理事会議事録

1. 日 時 : 2025年6月8日(日) 10:00~13:13
2. 場 所 : 大阪市北区豊崎3-20-1 インターグループビル ZoomにてWeb会議
3. 出席者
(1) 出席者 10名 大橋健、水野勝教、今井俊二、森重智年、野村泰朗、松山森仁、
政岡恵太郎、瀧本英智、梅田寛康、田中宏明(監事)
欠席者 1名 島谷太
(2) 理事以外の出席者 2名
前田正久(事務局長)、休場万喜(事務局)

4. 議 事
 1. 2025年名古屋大会総括
 2. 2026年大会について
 3. ブラジル世界大会について
 4. 各理事の担当業務について
 5. その他

5. 資 料
 - 資料 - 1. 参加者アンケート(要約)
 - 資料 - 2. Rescue&Sim. 競技運営2026
 - 資料 - 3. サッカー総括
 - 資料 - 4. 2026愛知大会 基本計画案
 - 資料 - 5. Webサイトリニューアル要件定義書(案)
 - 資料 - 6. RCJJリバイバルプラン

6. 議事概要

(1) 議長の選出

①大橋代表理事が議長に選出され開会を宣言し、本理事会は、定款第18条の規定を満足しており、成立していることを報告した。

(2) 2025年名古屋大会総括

①今井理事より、資料 - 1に基づき、参加者アンケートの説明がなされた。大会前の情報共有について、回答総数82件中、とても良かった25件、良かった37件、あまりよくなかった19件、少しも良くなかったが1件あった。HPやブログ、Gmail、Slack等を通じて情報共有がされていたとの肯定的なコメントがあった一方で、ホームページの構造の複雑さ、情報の分散、初参加者にとって分かりにくかったとの回答があった。大会期間中の参加・運営について、とても良かった34件、良かった40件、あまりよくなかった6件、少しも良くなかったが2件あった。肯定的なコメントとして、大きなトラブルなく進行し、スケジュール通りの運営だった、チーム間の交流が深まったとの回答があった。否定的なコメントとしては、交流会の告知が遅い、サッカーでの審判対応の不統一、荷物置き場の不足等があった。森重理事より、技術委員会でアンケート結果を共有していいかの質問がなされた。大橋代表理事より、今月13日までに各担当競技理事で内容を確認し、問題がなければ技術委員会に公開することで承認がなされた。

・森重理事より、資料 - 2に基づき、レスキューとシミュレーションの大会報告と2026年の課題について説明がなされた。前年比で全体として306→317チームの微増、レスキューラインでワールドへの移行が進んでいるが、メイズではシフトが進んでおらず、シミュレーションの参加チーム数に変化はなかったとの報告がなされた。技術委員会の運営について、委員長が森本氏に交代した。活動に参加しない技術委員がおり、いかに協力頂くか今後の課題である。大会運営については、返金対応、世界大会推薦チームの年齢確認漏れ、シミュレーション参加チームの減少があった。

・松山理事より、資料 - 3に基づきサッカーの大会運営について報告がなされた。大会進行について、全体的に大きな遅れはなく競技進行が行われ、システムトラブルもなかった。大会準備では、新たな人材の確保が必要であり、技術委員会を含めたマネジメント方法に改善の必要



がある。その他事案として、大人ロボットによるディスコンが出た。表彰状のタイトル印刷ミスがあった。水野専務理事より、新設されたサッカーライトウェイトユース (SCY) について、報告を求めた。旧サッカーワールド・ライトウェイト (SWL) はエントリー数が多かったため、スイス式の運営ではスケジュールに無理があったが、SCYと分けたことによりスケジュール管理ができるようになり、かつチーム間のレベル差が改善されて良かった。今後は、SCYからSWLへスムーズに移行できるか注視する必要があるとの報告がなされた。

・梅田理事より、OnStageの大会準備・運営について報告がなされた。地元開催ということもあり、スタッフが集めやすい大会ではあったが、ステージ周りのスタッフは昼休憩を取る暇もなかったため、今後は2交代制にするなど、改善が必要である。チャレンジクラスでステージのサイズを小さくする案があるので、検討が必要である。減点対象者が出たので、ブロックやメンターに対し指導が必要と感じた。エントリーの参加資格を改定したことで、参加チームが増えた。一方でチャレンジリーグからワールドクラスへの移行が今後の課題であるとの報告がなされた。

・野村理事より、交流会について、アンケートでは告知不足や内容についての不満があった。総会でご意見頂いたジュニアパーティーを準備日の終わりに開催できるか、場所の確保等検討したいとの報告がなされた。

・受付担当の瀧本理事より、マニュアルを作成しスムーズな運営ができた。当日に会場Mapを作成し受付で共有したので、今後はSlackで事前共有できればと思う。スタッフの欠席確認や備品不足があったので、次回から改善したいとの報告がなされた。

・大橋代表理事より、人工知能学会賞について、選定メンバーに人工知能学会の会員が含まれていなかったとのこと指摘を受けた。また、理事会で推薦チームの承認を得る必要があったため、急遽メールにて審議を行った。来年度は承認までの流れを見直し、スムーズな対応をしたいとの報告がなされた。

・水野専務理事より、ポートメッセ名古屋での開催は3年目ということもあり、滞りなく運営ができたかと思う。来年度は愛知県内での開催を予定しているので、これまでに培ったノウハウを次の大会に生かしたいとの総評がなされた。

(3) 2026年大会について

①水野専務理事より、資料 - 4 に基づく基本計画案について、5月末までに技術委員会の了承を概ね得ており、6月中に会場側の正式な承認が得られれば、概算見積を出し予算規模を決定するとの説明がなされた。

・松山理事より、競技が4フロアに分かれて行われるため、各フロアの連携や、エレベーターの使用タイミング、収容チーム数、インタビュールームの確保等、運用をどうするか検討する必要があるとの意見がなされた。

・森重理事より、レスキューとシミュレーションを1か所に集約する形で進めていき、CoSpaceとRescueとAutonomous Drivingの競技実施については、検討するとの意見がなされた。

・梅田理事より、会場の広さ、音響設備、練習ステージの確保等確認が必要であるとの意見がなされた。

・水野専務理事より、各競技担当理事は会場に下見に来て頂くこともできるので、交通費については島谷理事と検討したい。

・森重理事より、レスキューの技術委員から一般客向けにメジャー競技を紹介するイベント開催の提案がある。また、できればジュニアの選手達にもイベントに参加する機会を与えたいとの提案がなされた。水野専務理事より、スペース的な制限もあるため、一般向けか選手向けか内容を検討してはどうかとの意見がなされた。

・大橋代表理事より、国際宇宙ステーションを再現したシミュレーションがあり、@Homeで新競技として開催準備を進めており、ジュニア向けに紹介してはどうかとの提案がなされた。また、スポンサーの紹介ブースを確保する必要がある、受付エリアと時間差で設置することはできないか検討して欲しいとの要望がなされた。

(4) ブラジル世界大会について

①政岡理事より、Soccer Openで1枠返す予定であるとの報告がなされた。梅田理事より、OnStageでホテルの会議室を借りる予定をしており、他チームから希望があれば合同で利用することは出来るので、JTBのオンライン説明会でメンターと情報共有をする旨説明がなされた。また、理事の交通費補助については、昨年同様に旅費交通費の予算から、会計の島谷理事と相談のうえ支払うとの確認がなされた。

(5) 各理事の担当業務について

①大橋代表理事より、2025 - 2026年度の理事体制について、現理事は前年度の担当を原則継続とするが、詳細については継続審議とし、新任の梅田理事には、OnStageの競技担当をして欲しいとの提案がなされ、承認がなされた。

(6)その他

①今井理事より資料 - 5に基づきWebサイトリニューアル要件定義書(案)について説明がなされ、承認を求めた。上記審議事項に関して下記のような意見があった。

- ・WordPressの使用について、脆弱性を懸念する意見があった。
- ・将来的にはブロックとの連携、ブログの統合を考えると独自開発したシステムの採用が望ましいのではないかと。
- ・予算やスポンサー収入が安定的ではないため、Kemarin - Tech社にすべてを依存するのは問題ではないかと。

大橋代表理事より、サーバー等のインフラ環境、サイト環境については、今井理事とKemarin-Techで再検討するよう指示がなされた。

②政岡理事より、資料 - 6に基づき事務局の再編について、RCJJを分社化し、競技運営システムの維持、運営、競技備品のレンタル等の収益事業を行い、安定かつスピード性のある新会社を設立する提案がなされた。

上記提案に関して下記のような意見があった。

- ・新しい会社を作らずとも、RCJJが専任で活動する人を雇い入れ、同様の活動を行えばいいのではないかと。
- ・一般社団法人は、収益事業をすることができるので、法人の形態は維持しつつ、収益部分を強化してはどうか。
- ・大会参加費による収益は1,000万円以下であるが、提案の内容であれば3,000万円は必要になるがどのように収益をあげるのか。
- ・小さな大会を運営し、収益をあげるのはどうか。
- ・収益のあるイベントを開催した場合の日本委員会の見解はどうか。
- ・スポンサー、大会参加費以外の収益がなければ、今後の継続は難しいのではないかと。
- ・RCJJは非営利型の法人であるため、税金面の優遇や低額で受けられるサービスがある。
- ・次の大会では大会キャラを募集し、グッズ製作を展開してはどうか。

以上の議論を踏まえ、事務局再編については、継続審議することとした。

③森重理事より、資料 - 2に基づきレスキューとシミュレーション技術委員会の連携強化(案)について説明がなされた。水野専務理事より、技術委員会での同意は得ているのかとの問いに対し、一部の委員とは相談しているが、反対する人がいるかもしれないとの回答がなされ、両技術委員会で継続審議することとなった。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2025年6月8日

議長 大橋 健

理事 水野 勝教

同 今井 俊二

同 野村 泰朗

同 森重 智年

同 松山 森仁

同 政岡 恵太朗

同 瀧本 英智

同 梅田 寛康

監事 田中 宏明